

ひかり

令和7年9月30日(火)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年 学年便り 10月号

『ひかり』がつくる附属小

9月19日(金)に6年1組、9月25日(木)に6年2組の「つどい」がそれぞれ行われました。「学級文化(〇年〇組らしき)」や「学級で夢中になれる活動」を発信する「つどい」では、その手立てとしてこれまで「劇」が通例化してきました。そうした中、6年1組は「ディベート」、6年2組は「即興の感想共有」と、どちらも“台本のない活動”を手立てとして取り入れました。シナリオを作り、その伝え方や身振り手振りに工夫の余地があった「劇」とは異なり、予定調和のない中、その場で思考する必要のあるこれらの活動は、“勇気がある決断”だったはずです。しかし、いずれのクラスも自分たちの思い描く形を当日、体育館で表現できていたように思います。「劇」として「つどい」を受け止めようとしてきた下級生にとって、戸惑いのある発信だったかもしれません。ただ、彼らが「つどい」をつくっていくうえで、間違いなく「劇」も含めた広い視野で「つどい」を見つめることができる、きっかけをも与えたことでしょう。そのような視点から、ひかり1・2組がつくりあげた活動は、“新たな附属小をつくる英断”となったといえます。10月3日(金)には、ひかり3組の「つどい」があります。迷いや困難にぶつかりながらも、力強く発信していく姿を願っています。



委員会活動でも、『ひかり』の輝く姿があります。「つどい」に向けた動きとして音楽委員会は、「雰囲気をつくる」「切り替えをする」ことを目的とした「学年の歌」の演奏の練習に時間を費やしています。「つどい」の直前に、音楽を通して附属小に一体感をもたらしているのは、毎日のように集まって練習している賜物でしょう。また本部委員会では「一人一人の笑顔」の土台となる「安心・安全な附属小」を実現するため「安全プロジェクト」として校内に進行方向を示すテープを貼り、廊下歩行を呼びかけています。附属小の現状から課題(のびしろ)を見出し、活動へと昇華させる姿を頼もしく思います。さらに園芸委員会では、校内に花を増やすため、暑い中昇降口前の雑草抜きに汗を流してきました。目に見える変化は下級生にとっても日々を見つめ直すきっかけとなるでしょう。後期を迎えようとしている今、どの委員会も常時活動が本格化したリ、プロジェクトという形で大きく全校に働きかけたりする場面があるかと思っています。先駆けとして動き出す委員会の子どもの姿から、その中心には『ひかり』の輝く姿があると確信しています。設定された残り3回の委員会活動をもって、活動内容は5年生『きぼう』への引継ぎを見据えたものに移行していきます。手応えを抱きつつ、自信をもって委員会を『きぼう』へ託せるとき『ひかり』がつくる附属小は確かなものになっていることでしょう。

11月には修学旅行が控えています。去る9月22日(月)には、3日目のコース別の研修先が決定し、いよいよ3日間の日程が本決定していきます。附属小をつくる一步を歩み続けてきた『ひかり』にとって、新たな挑戦であり、その後の糧ともなる修学旅行を、どの子にとっても価値あるものにしていきたいと考えています。ご家庭でも話題にさせていただきながら、変わらぬご理解とご協力をいただければと思います。

修学旅行実施の目的

- 東京の首都機関や諸施設の見学・体験活動を通して、日本の政治、科学、歴史、文化等についての理解を深め、**今後の学習**に生かす。
- グループや学級・学年、一般の方など、**人とかわりながら過ごす中**で自分の行動を見つめ、今後のよりよい生活へと生かす。
- 小学校6年間で**共に歩んできた仲間**との思い出をつくり、信頼関係をより確かなものにする。